

南の風

Shaplaneer
since 1972

vol. 282
2018. December

特集

「寄付」って
なんだろう？

「寄付」ってなんだろう?

12月は寄付月間です。

寄付月間 (Giving December) とはNPO、企業、行政などが協働で行っている全国的なキャンペーンです。この寄付月間は、一人ひとりが寄付について考えたり、実際に寄付してみたり、日本で寄付が進むきっかけにしようという思いから、2015年から始まりました。

私たちNPO/NGOの活動と切っても切れない関係である「寄付」。これを読んでいる皆さまも、きっと何かしらの寄付をした経験があるのではないのでしょうか。

けれど「寄付」についてこれまでしっかりと学んだり、考えたことはありませんか。寄付って結局何に使われるの? そもそもNPO/NGOってどうやって運営してるの? 今回の特集ではこの寄付月間を機に、知っているようで知らない「寄付」を紐解き、みんなで寄付について考えたいと思います。

インタビュー・文
上嶋 佑紀 (国内活動グループ)

INDEX

特集「寄付」ってなんだろう?

- 4 よくわかる! 寄付入門
—シャプラニールの寄付を分解!—
- 6 寄付者の方からいただいたメッセージ
- 7 現地職員から寄付者の皆さまへ
- 8 専門家に聞く!
シャプラニールの“資金調達力”
合同会社喜代七代表/日本ファンドレイジング協会理事
山元 圭太さん
- 11 コラム データで見る日本の寄付
- 12 理事・評議員からのメッセージ
自分の「存在意義」を考える
シャプラニール評議員 福井 崇人さん
- 14 PROJECT・NEWS
地域住民から見たOne River One Community (ネパール)
生徒を通じたコミュニティ防災力の底上げ (バングラデシュ)
- 16 この人に聞きたい!
モデル/俳優/ファッションプランナー 谷 裕介さん
- 19 ユース・フォーラム2018
～あなたに届け、国際協力～ 実施報告
- 20 シャプラバ
ボランティアグループ「クシクシ倶楽部」岡田 香織さん
- 21 クラフトリンクからのお知らせ
約50品目の手工芸品の価格を見直しました
- 22 シャテシャテ!
株式会社 ニールズヤード レメディーズ
- 24 PHOTOきちゅね/ハンチカ /今月の切手
- 25 シャプラ文化部
ネパール数字で算数
- 26 西日本豪雨災害・被災地支援活動報告
- 27 お知らせ



授業そっちのけで、突然の訪問者を見に窓際に群がる子どもたち。人の瞳は好奇心によって磨かれるのだろうか。(2012年7月、バングラデシュバゲルハット県南端の村にて。撮影:藤崎文字)



「誰も取り残さない。」

社会のさまざまな制度や仕組みから取り残され、すべての人が持つ豊かな可能性が奪われてしまうことがあります。

私たちは人に寄り添い自らも当事者になることで社会課題の解決を進めています。

誰も取り残されない社会、
貧困のない社会の実現をめざして。

南の風 通巻282号 (季刊)
2018年12月1日発行

発行元 特定非営利活動法人
シャプラニール=市民による海外協力の会
発行人 岩城幸男
編集長 小松豊明
編集 上嶋佑紀 須藤心 藤崎文字 宮原麻季
デザイン 柴田篤元 (matricaria.)
印刷 株式会社上毛印刷

東京事務所 (火曜から土曜 10:00~18:00、日曜、月曜、祝日定休)
169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内
TEL 03-3202-7863 FAX 03-3202-4593
E-mail info@shaplaneer.org
Web https://www.shaplaneer.org/

⇒ さまざまな寄付の形

さらにシャプラニールに集まる寄付の種類を見てみましょう。一口に寄付といっても、さまざまな形があります。

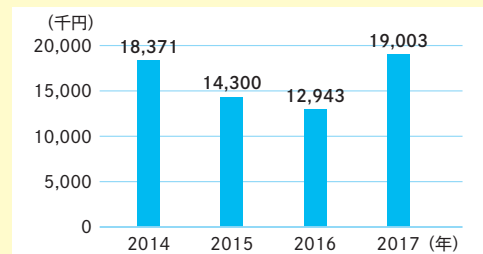
① 一般寄付

(使途指定なし、寄付金控除対象)

いわゆる寄付はこのカテゴリーに入ります。通常で受け付けている寄付のほか年末年始募金などの季節募金や、募金箱による寄付などがカウントされます。

使途が指定されていないため団体にとって自由度が高く、さまざまな活動に使用されます。

一般寄付額推移



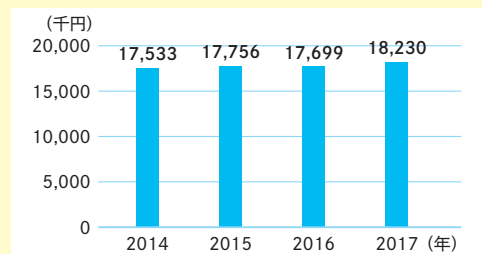
※2014年度、2017年度は大口の相続遺贈による寄付があり金額が大きくなっている

② マンスリーサポーター費

(使途指定なし、寄付金控除対象)

マンスリーサポーターは毎月千円以上の一定額を寄付して継続支援する制度です。実はマンスリーサポーター費は会費ではなく寄付金扱いになります。これは会員と違い議決権などの対価性を有しないので寄付金として扱われます。よって確定申告時に手続きをすれば寄付金控除の対象となります。

マンスリーサポーター費推移



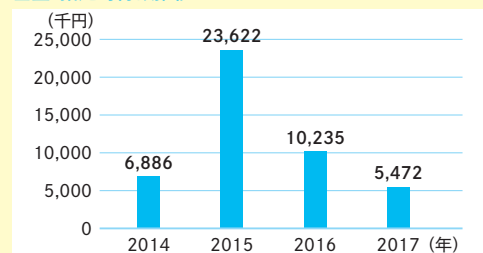
③ 基金・指定寄付

(使途指定あり、寄付金控除対象)

応援したいプロジェクトや国にのみ使われる寄付です。シャプラニールでは子どもの支援事業に使われる「子どもの夢基金」や、指定した国での活動にのみ使われる「バングラデシュ指定」、「ネパール指定」などのメニューがあります。

支援者の方が応援したいプロジェクトにだけ使われるので、より自分の希望に沿ってお金を託すことができます。

基金・指定寄付額推移



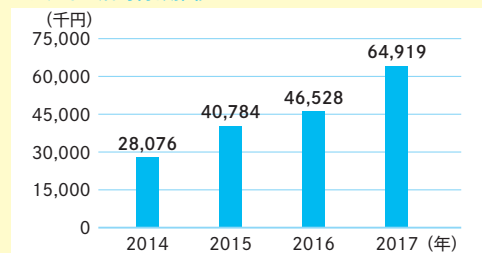
※2015年度はネパール大地震による寄付があり金額が大きくなっている

④ 物品寄付＝ステナイ生活

(使途指定なし、寄付金控除対象外)

現金ではなく、書き損じはがきや切手、金券、書籍など皆さまの使わなくなった不要品を集めて換金し、資金として活用する寄付です。物品寄付のメリットは、不要品を送るだけなので参加のハードルが低く、気軽に参加できることです。寄付金額も年々増加しています。

ステナイ生活寄付額推移



⑤ その他

お金、あるいはお金にかわるものの寄付だけでなく、時間の寄付＝ボランティアや、場所の提供という寄付の形もあります。シャプラニールでは、ステナイ生活の仕分けボランティアを毎年募集しています。東京事務所には毎日多くの方が来てボランティアをしています。

シャプラニールはさまざまな寄付メニューを用意しています。皆さまの金額・用途のご希望に合わせて寄付の方法をご検討いただければと思います。皆さまからの寄付は、私たちの活動に大切に活用させていただきます。

⇒ NPO/NGOの財源を見てみよう

NPO/NGOの収入源には主に「会費」「寄付」「助成金」「事業収入」などがあり、それらを資金として活動しています。この規模やバランスは団体によってさまざまです。これは、団体の活動分野等に大きく左右されます。

国際協力に限らず国内の震災復興や障害者支援など、さまざまな分野で活動しているNPO全体の平均で見ると意外にも事業収入の割合が最も高くなっていますが(図1)、シャプラニールのような、海外で活動している国際協力NGOに絞ってみると寄付金収入が最も多くなっています(図2)。

図1:NPOの収入の内訳

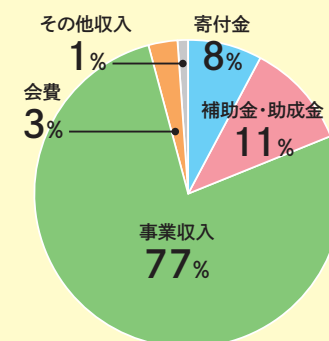
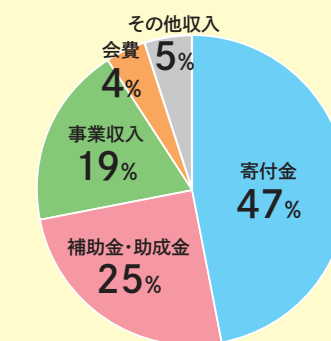


図2:NGOの収入の内訳



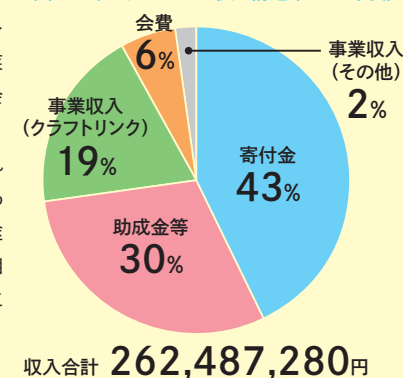
出典：平成29年度特定非営利活動法人に関する実態調査報告書(内閣府)を基にシャプラニールが作成

出典：NGOデータブック2016(国際協力NGOセンター)を基にシャプラニールが作成

ではシャプラニールの収入構造を見てみましょう(図3)。シャプラニールの財源は寄付金が最も多く43%を占めています。その他には助成金、事業収入(クラフトリンクの販売)、そして皆さまからの会費などがあります。

NPO/NGOが財政基盤を考えるときに、それぞれの団体の特性に見合った収入バランスを考慮することが重要です。シャプラニールの場合は、用途が制限される助成金に頼りきらず、自由度が高く自立した活動が可能なバランスのとれた収入構造になっています。

図3:シャプラニールの収入構造(2017年度)



よくわかる！ 寄付入門

—シャプラニールの寄付を分解!—

シャプラニールのようなNPO/NGOが活動する上で必要な資金はどこから出てきていると思いますか。活動現場でのことは取り上げられても、資金面について語られることは少ないと思います。私たちNPO/NGOにとって、現地に寄り添った活動と、そしてそのための資金、そのどちらが欠けていても効果的かつ持続的な支援活動はできません。

現地職員から寄付者の皆さまへ

皆さまからいただいたご寄付はシャプラニールの活動地で大切に活用しています。実際に現地で事業に携わっている職員から、会員・寄付者の皆さまへメッセージを預かってきました。

バングラデシュ事務所 マフザ・パルビン (プログラム・アシスタントオフィサー)

いつも私たちの活動を支えてくださりありがとうございます。皆さまの支援により、バングラデシュの少女たち、特に8歳～18歳の働かざるを得ない少女たちへの支援を継続して行うことができます。彼女たちは、家事使用人として雇用主の家に来た日から、幼少時を子どもとして過ごせなくなってしまうという過酷な状況にあります。特に7～9歳の少女たちにとって、親と離れて暮らさざるを得ない状況には心が痛みます。ですが、彼女たちのために運営している支援センターで学び、さまざまな技術を身につけることで、通い始めて数カ月すると少女たちは少しずつ自信をつけ、自分の将来について夢を持つようになります。

他にノルシンディ県の中洲で暮らす子どもたちへの支援やディナジプール県の先住民の子どもたちへの支援、およびクルナ県で行っている防災活動支援など、全て子どもたちが自身の権利を取り戻すことにつながっています。それもこれも、みなさんの継続したサポートがあるからこそその成果です。



ダッカ市内の支援センターにて少女たちにヒアリングする様子



PROFILE

2009年7月に入職し、少女や障害者の権利に関するプロジェクトに携わった後2010年より家事使用人の少女たち支援のプロジェクトを担当。2012年～2014年は新たに立ち上げた少女を家事使用人として都市へ送り出さないためのアドボカシープロジェクトを担当した後、再度現在のプロジェクト担当となった。2017年6月に来日し、バングラデシュで働く少女たちの現状を伝えるべく約3週間日本全国12カ所で行った。

ネパール事務所 スリジャナ・シュレスタ (プログラム・オフィサー)

2015年4月25日の大地震の時には多くの方々が緊急救援のために寄付をしてくださり、ありがとうございます。地震発生から3年半が過ぎ、一時高まった防災の意識は薄れつつあると感じています。そのような中で、私たちは地震防災活動として、資料や動画を使って防災情報を発信するラーニングセンターをカトマンズ盆地内で2つ運営しています。

このラーニングセンターは地域住民が防災について知る拠点となっています。

直接伝えることができず残念ですが、このような拠点が持てたことを本当に感謝しています。大地震を生き残り、復興を目指す人々を支援できるのは皆さまのおかげです。



地域住民と防災地図(ハザードマップ)を作成しました



PROFILE

2004年1月入職。ストリートチルドレン支援事業、地震防災キャンペーン事業などを経て、現在はネパール大地震復興および防災事業とクラフトリンクを担当。2012年にはクラフトリンクのSheソープの品質管理やマーケティング研修に参加するため2週間ほど日本に滞在し、日本で求められる品質やデザイン性についての理解を深めた。

寄付者の方からいただいた

Message

実際にシャプラニールに寄付をいただいている方から、どのような想いでシャプラニールを支援してくれているのか伺いました。

マンスリーサポーター 山下めぐみさん

私は、2010年に青年海外協力隊に参加し、ネパールで2年間、肢体不自由のある子どものリハビリテーションを通し、人や文化に触れ、かけがえない日々を送りました。帰国後は、国際協力の在り方を模索しつつもそこから遠ざかる毎日の中、2015年にネパールで大地震が起きました。そこで、勤務先の協力を得てネパールへの募金を企画し、友人がかかわるシャプラニールに託すことにしました。シャプラニールは、日本にいる私達にとっても、目に見える温かい支援を提供してくれました。これを機に、マンスリーサポーターを始めました。仕事をしながら、世界と繋がることができる「私なりの国際協力」の一つとして、未永く続けていきたいと思っています。



兵庫県在住、理学療法士。マンスリーサポーターとして2015年よりシャプラニールを支援

ステナイ生活の物品寄付者の皆さまからのお手紙紹介

寄付者の方からお送りいただく寄付、特にステナイ生活の物品寄付とともにお手紙が添えられていることがあります。ご自身の思い出の品、亡くなったご家族の遺品、さまざまな想いでシャプラニールに寄付をされていますが、共通しているのは、社会を良くしたい、この物品を何か社会の役に立てたいという気持ち。そんな心のこもったお手紙をいくつかご紹介します。

シャプラニール様
朝日新聞の記事を拝読しました。
少しでもお役に立てればと思い、
切手を送らせて頂きます。
のりがくっつかないように台紙も
一緒にに入れて頂きました。
自分も世界のために何かやるべき
なんでしょうが、日常生活に忙殺されて
いるのが現状です。
実際に行動していらっしゃるシャプラニール
におかれましては、毎日お忙しいかと
思っています。ご自愛下さいませ。

東京都在住、E.Kさん、女性

前略
新聞記事により、貴活動と拝見いたし
敬意を表して居るところです。
焼酎するつもり勿体ないと思ひ、何にかに役立た
ないかと保存して居りましたが、今日バングラ
デシュの教育支援に貴活動を通して、援助
できることとなり、有難いことだと感謝して居
ます。どうぞよろしくお願い致します。
三月二十三日
草々

広島県在住、F.Hさん、男性

担当者様
新聞を読んで目にとまりました。古く物にお役に
立つかどうかは分かりませんが、お送りします。
皆様の活動で笑顔になる子どもたちが一人でも多
く生まれますことを願っています。
お体を大切にされ、活動下さるようお願いいたします。
申し上げます。

東京都在住、M.Sさん、女性

「フ・ア・ン・ド・レ・イ・ジ・ン・グ」は 「フ・レ・ン・ド・レ・イ・ジ・ン・グ」

「誰も取り残さない」を実現する仲間を集める！

インタビュアー／上嶋佑紀（国内活動グループ）



PROFILE

山元 圭太（やまもと・けいた）
シャプラーニール評議員、合同会社喜代七代表、国際協力NGOセンター（JANIC）理事、日本ファンドレイジング協会理事・認定講師・認定ファンドレイザー。経営コンサルティングファームで経営コンサルタントとして5年、NPO法人かものはしプロジェクトでファンドレイジング担当ディレクターとして5年半のキャリアを経て、非営利組織専門のコンサルタントとして独立。

——現在はシャプラーニールの評議員として会にかかわってくださっていますが、山元さんから見てシャプラーニールのファンドレイジングの特徴はどこあると思われませんか。

まず1つは自己財源率が高いことです。財源の7割以上が寄付や会費、クラフトリンクの事業収入で構成されており、助成金などの他者財源（使途や期間が限定されている財源）に頼っていません。

2つ目は仲間が多いことです。そして仲間のあり方がとても多様にあります。私は「ファンドレイジングは『フレンド』レイジング」だと考えています。お金を集めるのではなく、団体のビジョンやミッションを一緒に実現してくれる仲間を集めることがファンドレイジングの本質です。例えば寄付をしてくれる人を「寄付者」と呼び、お金でなく時間を提供してくれる存在を「ボランティア」、専門性を提供してくれる方を「プロボノ」、知見や人脈を提供しコミットしてくれるのが「理事・評議員」、人生の一部を持ち寄るのが「職員」だと思っています。そしてこういった多様な人たちが集まり思いを実現する場がNPO／NGOです。ファンドレイザーが集めないといけない物のうち、お金はその一部でしかなく、ビジョンを実現するために必要な知見やヒト、情報もその対象です。シャプラーニールの活動を見てみると、例えばボランティア説明会を頻繁に開催して参加者を

集ったり、「ステナイ生活」という気軽に参加できる形を用意していたり、さらにそれが年々増加しお金にも繋がっている。また寄付に抵抗がある方もクラフトリンクの購入を通じての支援ができる。こういったファンドレイジング＝フレンドレイジングするうえで、さまざまな形での参加のデザインが用意されているというのが特徴だと感じました。

そして3つ目は熱心な会員さんが多いということです。先日初めてシャプラーニールの総会に参加し、熱い議論が交わされていてこれが本来あるべき総会の形だと感じました。

——では、シャプラーニールのファンドレイジングにはどのような課題があると思いますか。

ファンドレイジング部門だけではなく、全組織的な巻き込みをもう少し増やすといいと思います。例えばクラフトリンク購入者が寄付をしてくれたり、会員になってくれたりと、全員が全員をうなる必要はないのですが、したいと思っただけでなく、すぐにできるような受け皿を用意しておくといいと思います。

他にもステナイ生活のボランティアがもっと活動について知りたいと感じた時に参加できる勉強会を開催したりなど、参加のステップアップをする階段をたくさん用意しておくといいと思います。

さまざまな参加のカたち

シャプラーニールのボランティア紹介！

●ステナイ生活仕分けボランティア

ステナイ生活の物品寄付（はがきや切手）の仕分けやカウントをしています。年齢不問、どなたでもご参加いただけるボランティアです。

●クシクシ倶楽部

社会人ボランティア・グループです。月に一回集まり、海外協力や身近な問題についてのイベントや勉強会を企画・運営しています。

●ユース・チーム

学生を対象にしたイベントの企画・運営をしている大学生・若手社会人によるボランティアグループです。

●シャプラーニール劇団

演じることでバングラデッシュやネパールの生活・文化を学ぶことを目的とし、1994年に結成されたボランティアグループです。

●地域連絡会

シャプラーニールの活動や現地の生活・文化などを各地域で伝えるため、全国約20ヶ所で会員が中心となって活動しているボランティアグループです。

☆ボランティアへの参加やご質問等はシャプラーニールまでお気軽にお問い合わせください！



東京事務所のステナイ生活仕分けボランティアの様子

ファンドレイジングとは、直訳すれば「資金調達」であり、NPO／NGOが活動する上で必要となる「資金」を集めることを指します。シャプラーニール評議員であり、日本ファンドレイジング協会理事の山元圭太さんに、シャプラーニールのファンドレイジングについて、また日本における寄付・ファンドレイジングの今後についてお話を伺いました。

——まずは山元さんのこれまでの経歴についてお聞かせください。

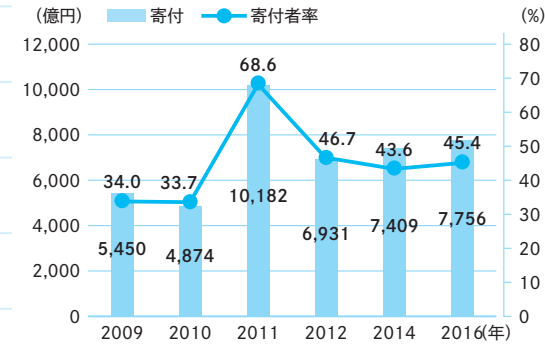
現在は非営利組織専門のコンサルタントとして活動しています。大学生のころから国際協力の活動を始めました。最初は駐在員に憧れインターンのような形で団体に所属していたのですが、その時感じたのはNGOにはいわゆる現場のプロは多いけれど、経営、特にマネジメントのプロは少ないということでした。その部分が不足しているがゆえに、財政・組織基盤的な所で現場のプロが本来以上のパフォーマンスを出せていないと感じました。それならば自分こそマネジメントのプロになりたいと思ったのが始まりです。

そこからコンサルタント会社に5年間勤め、その後「NPO法人かものはしプロジェクト」に入職し、ファンドレイジングや管理部門などを担当してきました。そして2014年に独立しました。

column データでみる日本の寄付

海外と比べて寄付文化が根付いていないといわれている日本。でも本当にそうなのでしょうか？まず、(図1)を見てみましょう。

図1:個人寄付総額・寄付者率



出典:寄付白書2017(日本ファンドレイジング協会)を基に筆者作成

2011年の東日本大震災の時には日本全国から非常に多くの寄付金が被災地支援として寄せられました。その後、一度下がりはしたものの、震災前から比較すると拡大傾向が続いています。また最新のデータでは20歳以上79歳以下の男女の約半数が何らかの寄付を行っています。

続いて、海外との比較(表1)を見てみましょう。

表1:寄付先進国との比較

	個人寄付総額(2016) ※韓国のみ2014 ※円換算額	名目GDP比 (2014)	個人寄付平均額(2016) ※韓国のみ2014 ※円換算額
日本	7,756億円	0.14%	27,013円
韓国	6,736億円	0.50%	9,095円
イギリス	1兆5,035億円	0.54%	74,400円
アメリカ	30兆6,664億円	1.44%	125,664円

出典:寄付白書2017(日本ファンドレイジング協会)を基に筆者作成

寄付が進んでいるといわれているアメリカやイギリス、そしてお隣韓国と比較してみると、名目GDP比が非常に低いことが分かります。韓国には寄付総額では若干ながら上回っているものの、GDP比では大きな差を付けられています。

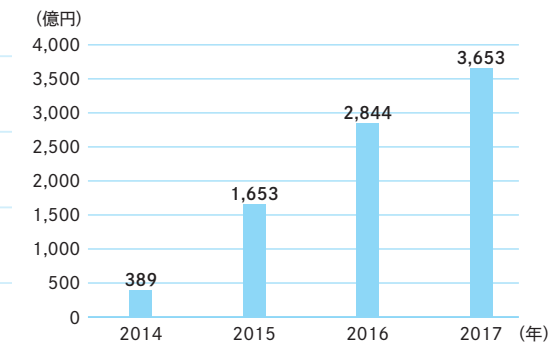
やはり日本には寄付文化は根付いていないのでしょうか。

私は着実に寄付は根付いてきているし、元々日本にはその土壌があると思っています。まず一つは、日本国内でも洪水など自然災害による被害、子どもの貧困、少子高齢化など社会問題を多く抱え、日本は「課題先進国」とまで呼ばれています。そして、そのことにより自分たちが抱える課題に目を向ける人が増えてきているように感じます。特に今年は自然災害が多かったので、ボランティアに参加したり、何らかの寄付を行ったという人も多いのではないのでしょうか。

また社会課題解決に向けたお金の動きも多様化しています。身近なところで言うと、Tポイントなどによるポイント寄付が一般的になってきたり、クラウドファンディングもここ数年で一気に知名度や利用数が伸びました。仮想通貨による寄付なども増えてきています。

特に大きいのはふるさと納税です。2014年に388億円だったふるさと納税総額は2016年には2844億円にまで急速に拡大しました(図2)。

図2:ふるさと納税寄付額推移



出典:ふるさと納税に関する現況調査結果
平成29年度実績(総務省)を基に筆者作成

過剰な返礼品競争や、ポータルサイトの普及により、応援したい自治体でなくもらえる返礼品で寄付先を選び、本来の目的を失っているという問題点はあるものの、社会課題解決に向かう大きなムーブメントには違いありません。他にも休眠預金活用法の施行など、お金の流れが増加及び多様化しています。こういった昨今の動きから、従来のいわゆる「寄付」という概念ではとらえられない寄付やお金の動きが、ますます加速しているように感じます。

上嶋 佑紀(国内活動グループ、日本ファンドレイジング協会認定ファンドレイザー)



——ありがとうございます。少し話は変わりますが、ファンドレイジングの専門家の山元さんから見て、これから日本の寄付市場はどのように変化していくと思いますか。

広義での寄付市場はこれからも広がっていくと思います。寄付白書(日本ファンドレイジング協会発行)によると2009年の個人・法人

寄付総額は1.1兆円だったものが2016年には1.5兆円にまでなっています。昨今の遺贈寄付の増加やクラウドファンディングの流行などを考えると、この増加傾向はまだまだ続いていると思います。

ただ「広義で」と言ったのは、例えばふるさと納税は税制度ですし、クラウドファンディングは寄付型ではなくリターンが発生する購入型としても、会計上は資本や借入金に入ることになります。こうやって通常の寄付の枠を超えてさまざまなお金の流れが増えてきていて、いわゆる狭義での寄付のことだけを考えると、追いつかなくなります。

狭義の意味での寄付のマネジメントはもちろん、広義の意味での寄付についても自分たちに必要な時にいつでも使えるように、ファンドレイザーは常にアンテナを張っておく必要があります。

——最後に、これから評議員としてシャプラインールにどうかかわっていきたいですか。

これからは現場のプロの人たちが本来以上のパフォーマンスを出せるよう財政基盤・組織基盤を作ることと貢献していきたいと思っています。またそういったことをシャプラインールのような歴史ある団体でどうやって作っていくのかということが私にとってのチャレンジでもあります。

インタビューを終えて

社会を変える？「ファンドレイザー」という仕事

この特集内でも何度か出てきている「ファンドレイジング」もしくは「ファンドレイザー」という言葉をご存知でしたでしょうか。インタビューをした山元評議員も指摘していたように、ファンドレイジングの本質はお金⇨資金集めだけではなく、もっとも深く、大きなものだと思っています。「ファンドレイジングはフレンドレイジング」。団体のビジョンに共感してもらい、支援者⇨仲間を増やしていくことがファンドレイジング、そして私たちファンドレイザーの役割です。今回の特集を通じて、普段なかなか見えにくいNGOの財政や寄付の使われ方について、考えてもらうきっかけになればと思います。それを皆さんにお伝えするのも、大切な寄付を預かる役割として必要なことだと考えています。またそれに従事しているファンドレイザーという役割も知ってもらえれば幸いです。

この仕事を通じて、少しかもしれないけれど社会をよくする流れを作っていると信じて、私たちは活動しています。

上嶋 佑紀